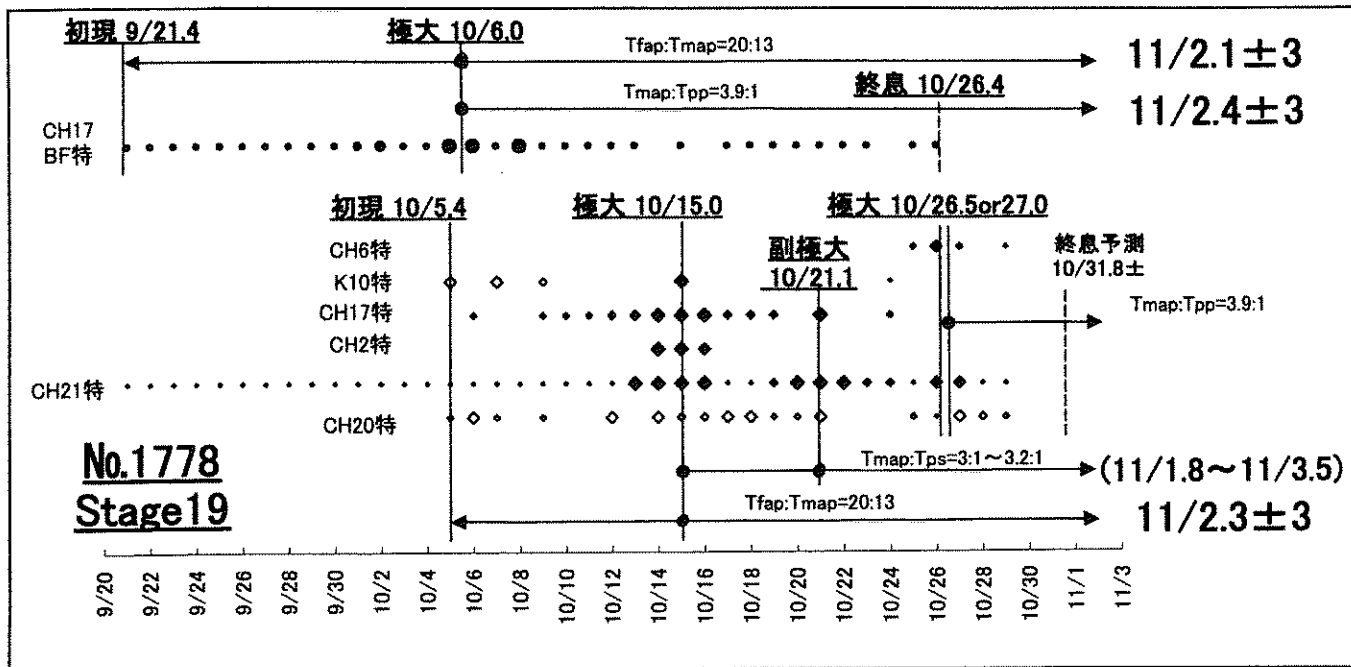


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告 10/26極大 11/2 甦の可能性否定困難



No.1778前兆第18ステージが示した10月16日±に対して、10月15日に極大が観測され、No.1778前兆は第19ステージに入りました。上図参照。

この10月15日が最終極大である場合は、10月28日夜に前兆が静穏化し、地震発生前の静穏期に入る可能性が計算されていました。

しかし、CH06に10月25~27日に糸状特異が出現し、CH21にも10月26日・27日と糸状特異が出現しました。糸状特異の出現状況は下記のとおり。

●CH06=10/25 18時~10/27 05時 中心=10/26 12時(10/26.5)

●CH21=10/26 19時~10/27 05時 中心=10/27 00時(10/27.0)

またCH20にも弱い特異が10/27.28に出現しました。CH06糸状特異は本年6/15の出現以来であることから、上記時期に極大認識ができます。上図のとおり、現状11月02日の可能性を示している可能性が示唆されますため、10月26.5日又は27.0日を極

大認識しますと、10/26.5 極大に対しては、10/31.6(14~15時)

10/27.0 極大に対しては、10/31.8(18~19時)

に前兆終息の可能性が計算できます。終息した場合でも12時間程度は観測し、前兆再出現がないかを確認する必要があります。

この場合、11月01日の昼近くまでの状況を見ないとなりません。11月02日発生の場合でも、確認できるのは前日の昼過ぎとなります。

また現状考え易い11月02日±に次の極大が出現し、第20ステージに移行する可能性も完全否定はできません。現時点では、10月31日夕刻~夜に前兆が終息し、11月02日に対応地震発生となるのか、11月02日±に極大が出現し、実際の地震発生は、より先の時期となるのかを判断することは困難です。

現状、11月02日発生を否定する根拠前兆は出現しておりませんので、11月02日発生は否定困難です。ご注意ください。

11月01日時点で前兆が継続し続けるか、02日±に極大が観測された場合は、11月02日(or3日)に地震発生の可能性は否定されます。その場合は、それまでの観測データを鑑み、続報で報告させていただきます。

※E-mailとFAXで配信しております「地震前兆検知観測情報」では前兆終息観測報告等は即時配信可能ですが、本HPでは、HP担当の方の仕事等の都合で更新アップが遅れる可能性もあります。ご理解下さい。

◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域  
太線領域内付近=可能性考え易い推定領域

◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：可能性①=11月2日 (or 3日)  
(※但し10月31日夜に前兆終息の場合)  
可能性②=11月02日±に極大が観測された場合は今後を観測し、要検討

◇推定地震種：震源浅い陸域日本列島の地殻地震  
◇推定発生時刻：午前9時±1 (又は午後6時±3)

